蔦屋書店

関係各位

2023年10月期　連結決算の概要

2023年12月14日
株式会社トップカルチャー

(1) 総括

当社グループの2023年10月期連結決算（2022年11月1日～2023年10月31日）は、以下の通りです。

・売上高は、189 億 53 百万円（前年同期　売上高 209 億　5 百万円）
・営業損失は、8 億　2 百万円（前年同期　営業損失 1 億 54 百万円）
・経常損失は、8 億 88 百万円（前年同期　経常損失 1 億 87 百万円）
・親会社株主に帰属する当期純損失は、13 億 76 百万円（前年同期純損失　2 億 72 百万円）

（参考）事業転換における売上の状況
※収益認識基準適用前の総額売上高

既存店比較　　百万円

	当年	前年	前年比	
■蔦屋書店事業	17,709	19,458	△ 1,749	91.0%
■トップブックス(ふるいち）店舗	1,883	556	1,327	338.7%
小売店舗事業計	19,592	20,014	△ 422	97.9%

全店比較　　百万円

	当年	前年	前年比	
■蔦屋書店事業	18,686	21,115	△ 2,428	88.5%
■トップブックス(ふるいち）店舗	1,920	612	1,308	313.6%
小売店舗事業計	20,500	21,727	△ 1,120	94.3%

※閉店店舗による影響　△1,421百万円/１１店舗

(2) 連結業績の要素別分析

今期は、既存事業における店舗改装として、DAISO を 6 店舗、ガシャポンを 17 店舗に導入し、収益及び客数最大化のための施策を推進していまいりました。併せて、ゲーム・トレーディングカード事業の子会社トップブックスへの切替（2022 年 6 月の切替開始より 25 店舗完了）を実施し、いずれも売上と来店機会の創出効果と収益性強化に寄与いたしました

また、スポーツ事業における子会社グランセナフットボールクラブでは、イベント開催の復活による売上増、訪問看護事業の株式会社ワーグルスタッフサービスは新規訪問先の獲得等で、いずれも前年を上回る売り上げとなりました。また、2023 年 6 月 5 日付で当社の蔦屋書店内で 22 店舗のタリーズコーヒーを運営しておりました株式会社メソッドカイザーを子会社化したことで新たに飲食事業が加わり、グループ全体の連結ベースの売上を押し上げました。

一方で、6 店舗の閉店に伴うコスト負担により販管費が増加したこと、加えて固定資産に対する減損損失 430 百万円を特別損失に計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想値を下回りました。、利益面に大きな影響を与えました。

(3) 今後の見通し

8月17日付けで発表した新中期経営計画で掲げております「“持続可能な書店創り”へのチャレンジ」を方針とし、新中計における戦略及び施策を確実に実施するとともに、9月に第三者割当引受増資、10月より書籍帳合先となった株式会社トーハンと連携し、新しい価値が創造できる次世代書店を創りあげ、読書文化の更なる付加価値向上のため共に推進し、2026年10月期の目標達成に向けて邁進してまいります。

以　上

****

本文書に関するお問い合せ先:　株式会社トップカルチャー　取締役財務部長兼管理部長　遠海　武則
〒950-2022　新潟市西区小針4-9-1　電話:025-232-0008